



鈴木 徹さん

「移住するにあたっては「不安もあった」と振り返る奥様の美樹さん。気になったのは、震災後の放射能の影響でした。「子どもが小さいので、食べ物や飲み水にはずっと気を使ってきました。広野は本当に大丈夫なのかなという不安は当時、やはり大きかったですね」

そんな不安は、町が水道水の検査を行って安全性を常に確認していることや、町の農家さんたちの取り組みなどを知り、徐々に解消されていったそうです。町役場の職員が真摯に相談に乗ってくれたことも安心感を高めてきました。

「広野町は、住民と町役場の距離が近いと感じています。何かあったらすぐに相談にのってもらえる雰囲気がいじょうね」

移住前の不安は  
安心感へと変化

町に広がる  
遊びのフィールド



鈴木 美樹さん

平日、徹さんは富岡町で会社員として働き、美樹さんは子育てをしながらパートタイムの仕事に就いています。お子さんたちは、朝は登校班で近隣の子どもたちと一緒に登校。下校時は美樹さんがお迎えに。「忙しいときは迎えに行くのも大変ですが、でも、小学校卒業までですからね。その時間も楽しめればと思っています」

休日には家族で遊びに出かけることも多く、自然豊かな町内には遊びのフィールドが広がっています。夏は自宅近くを流れる浅見川での水遊びをはじめ、カブトムシ捕り、バーベキューなど、アウトドアの遊びも多彩。親子で海沿いをサイクリングするのも楽しみのひとつ。

一年を通して季節を感じながら暮らしを楽しんでいる様子が伺えました。

夏はアウトドアな遊びがいっぱい!

Suzuki's Family Album



鈴木さん家の  
Hirono Style



Hirono Family  
鈴木 さん一家



心の余裕が生まれた日々

深呼吸が心地よい

広野町の暮らし。

思いきり走り回る  
子どもたちの笑顔

広野町でご夫婦とお子さんの5人で暮らす鈴木さんご家族。ご主人の徹さんの出身地である同町に自宅を建て、5年ほど前に移り住みました。現在、小学校4年生、3年生、こども園に通う3人のお子さんがいます。

以前はいわき市の市営住宅に住んでいたという鈴木さん。広野町で暮らし始めて実感したことは、子どもをのびのび育てられるということでした。「集合住宅だったので、人との距離が近すぎる感じがあって。子どもが走り回る音や声も、近所迷惑なのではないかと気になってしまい、「静かにしなさい」と注意することも多かったんです。引っ越して来てからは一度も言ったことがないですね。子どもたちも思いきり走り回っています」